

(19)日本国特許庁(JP)

(12)特許公報(B2)

(11)特許番号
特許第7149070号
(P7149070)

(45)発行日 令和4年10月6日(2022.10.6)

(24)登録日 令和4年9月28日(2022.9.28)

(51)国際特許分類 F I
A 6 1 F 13/49 (2006.01) A 6 1 F 13/49 4 1 3
A 6 1 F 13/496 (2006.01) A 6 1 F 13/496

請求項の数 15 (全18頁)

(21)出願番号	特願2017-253860(P2017-253860)	(73)特許権者	000115108 ユニ・チャーム株式会社
(22)出願日	平成29年12月28日(2017.12.28)		愛媛県四国中央市金生町下分182番地
(65)公開番号	特開2019-118470(P2019-118470 A)	(74)代理人	110003247弁理士法人小澤知的財産事務所
(43)公開日	令和1年7月22日(2019.7.22)	(72)発明者	大尾 守 香川県観音寺市豊浜町和田浜1531-7 ユニ・チャーム株式会社テクニカルセンター内
審査請求日	令和2年12月16日(2020.12.16)	(72)発明者	工藤 悦子 香川県観音寺市豊浜町和田浜1531-7 ユニ・チャーム株式会社テクニカルセンター内
		審査官	津田 健嗣

最終頁に続く

(54)【発明の名称】 吸収性物品

(57)【特許請求の範囲】

【請求項1】

前後方向と、
前記前後方向に直交する幅方向と、
前胴回り域と、
後胴回り域と、
前記前胴回り域と前記後胴回り域との間に配置された股下域と、
吸収コアを有し、かつ前記股下域、前記前胴回り域及び前記後胴回り域に跨って配置された吸収性本体と、

前記吸収性本体と厚さ方向に重なり、前記前胴回り域に配置された前側外装体と、
前記吸収性本体と厚さ方向に重なり、前記後胴回り域に配置された後側外装体と、
前記前側外装体の前記幅方向の外側部と前記後側外装体の前記幅方向の外側部を接合するサイド接合部と、を有する吸収性物品であって、

前記前側外装体は、複数の外装シートを有し、
前記吸収性本体の前端縁よりも前側には、少なくとも2枚の前記外装シート同士が接合されていない外装非接合領域が設けられており、

前記外装シートは、前記吸収性本体の前端縁を覆い、かつ前記吸収性本体の肌対向面側に位置するカバーシートと、前記吸収性本体の非肌対向面側に位置する外装非肌側シートを有し、

前記外装非肌側シートは、前記吸収性本体の肌対向面に対向する第1外装非肌側シート

10

20

と、前記第 1 外装非肌側シートよりも非肌対向面側に位置する第 2 外装非肌側シートと、を有し、

前記外装非接合領域は、前記カバーシートと前記第 1 外装非肌側シートの間と、前記第 1 外装非肌側シートと前記第 2 外装非肌側シートの間と、にそれぞれ設けられており、

前記カバーシートと前記第 1 外装非肌側シートの上に設けられた前記外装非接合領域よりも前側には、前記カバーシートと前記第 1 外装非肌側シートが接合された外装接合領域が設けられ、

前記第 1 外装非肌側シートと前記第 2 外装非肌側シートの上に設けられた前記外装非接合領域よりも前側には、前記第 1 外装非肌側シートと前記第 2 外装非肌側シートが接合された外装接合領域が設けられている、吸収性物品。

10

【請求項 2】

前記外装非接合領域の少なくとも一部は、前記吸収コアと前記前後方向において重なって配置されている、請求項 1 に記載の吸収性物品。

【請求項 3】

前記吸収性本体は、前記吸収コアの前記幅方向の全長を 3 等分した領域であって前記吸収コアの前記幅方向の中央に位置する中央領域を有し、

前記外装非接合領域は、前記中央領域と前記前後方向において重なって配置されている、請求項 2 に記載の吸収性物品。

【請求項 4】

前記外装非接合領域は、前記吸収コアの前記幅方向の全域と前記前後方向において重なって配置されている、請求項 2 又は請求項 3 に記載の吸収性物品。

20

【請求項 5】

前記外装接合領域の前記前後方向の長さは、前記外装非接合領域の前記前後方向の長さよりも長い、請求項 1 から請求項 4 のいずれか 1 項に記載の吸収性物品。

【請求項 6】

前記吸収性本体は、前記吸収コアよりも前側に延びる前端部を有し、

前記吸収性本体の前端部には、前記吸収性本体と前記カバーシートが接合されていないカバー非接合領域が設けられている、請求項 1 から請求項 5 のいずれか 1 項に記載の吸収性物品。

【請求項 7】

30

前記カバー非接合領域は、前記外装非接合領域と前記前後方向において重なっている、請求項 6 に記載の吸収性物品。

【請求項 8】

前記外装非接合領域の前記前後方向の長さは、前記カバー非接合領域の前記前後方向の長さよりも長い、請求項 6 又は請求項 7 に記載の吸収性物品。

【請求項 9】

前記カバー非接合領域の前記前後方向の長さは、前記外装非接合領域の前記前後方向の長さよりも長い、請求項 6 又は請求項 7 に記載の吸収性物品。

【請求項 10】

前記吸収性本体は、前記吸収コアよりも前側に延びる前端部を有し、

前記吸収性本体の前端部には、前記吸収性本体と前記外装非肌側シートが接合されていない本体非接合領域が設けられている、請求項 6 から請求項 9 のいずれか 1 項に記載の吸収性物品。

40

【請求項 11】

前記本体非接合領域は、前記外装非接合領域と前記前後方向において重なっている、請求項 10 に記載の吸収性物品。

【請求項 12】

前記外装非接合領域の前記前後方向の長さは、前記本体非接合領域の前記前後方向の長さよりも長い、請求項 10 又は請求項 11 に記載の吸収性物品。

【請求項 13】

50

前記本体非接合領域の前記前後方向の長さは、前記外装非接合領域の前記前後方向の長さよりも長い、請求項 1 0 又は請求項 1 1 に記載の吸収性物品。

【請求項 1 4】

前記本体非接合領域の前記前後方向の長さは、前記カバー非接合領域の前記前後方向の長さよりも長い、請求項 1 0 から請求項 1 3 のいずれか 1 項に記載の吸収性物品。

【請求項 1 5】

前記カバーシートと前記第 1 外装非肌側シートの間設けられた前記外装非接合領域、及び前記第 1 外装非肌側シートと前記第 2 外装非肌側シートの間設けられた前記外装非接合領域は、いずれも前記吸収性本体の前端縁に重なっている、請求項 1 から請求項 1 4 のいずれか 1 項に記載の吸収性物品。

10

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本発明は、使い捨ておむつ等の吸収性物品に関する。

【背景技術】

【0002】

特許文献 1 に記載された吸収性物品は、吸収性本体と、吸収性本体と厚さ方向に重なって配置された外装体と、を有し、外装体の幅方向の外側部同士が接合されたパンツ型の吸収性物品である。吸収性本体は、股下域を跨いで前後方向に延びており、着用者の脚によって挟まれる。

20

【先行技術文献】

【特許文献】

【0003】

【文献】特開 2 0 1 6 - 3 4 3 4 1 号公報

【発明の概要】

【0004】

このように構成された吸収性物品を着用した着用者が脚を前後に動かすと、吸収性本体も前後方向に移動し、吸収性本体の前端縁が前後方向の外側に向かって移動する。このとき、吸収性本体の前端縁が、外装体を巻き込むように外装体の非肌対向面側に移動してしまうことがある。吸収性本体の前端縁が外装体の非肌対向面側に移動した状態では、吸収性本体と着用者の間に外装体が挟まれている。当該状態において吸収性本体の前端縁が元の位置に戻るよう前後方向の内側に向かって移動すると、吸収性本体と共に外装体が股下域側に向かって移動することがある。前胴回り域において外装体の位置がずれ、着用者の腹部を覆い続けることができないおそれがあった。

30

【0005】

そこで、着用者の脚を動きによって前胴回り域における外装体の位置ずれを抑制でき、着用者の腹部を覆い続け易い吸収性物品が望まれる。

【課題を解決するための手段】

【0006】

一態様に係る吸収性物品は、前後方向と、前記前後方向に直交する幅方向と、前胴回り域と、後胴回り域と、前記前胴回り域と前記後胴回り域との間に配置された股下域と、吸収コアを有し、かつ前記股下域、前記前胴回り域及び前記後胴回り域に跨がって配置された吸収性本体と、前記吸収性本体と厚さ方向に重なり、前記前胴回り域に配置された前側外装体と、前記吸収性本体と厚さ方向に重なり、前記前胴回り域に配置された後側外装体と、前記前側外装体の前記幅方向の外側部と前記後側外装体の前記幅方向の外側部を接合するサイド接合部と、を有する吸収性物品であって、前記前側外装体は、複数の外装シートを有し、前記吸収性本体の前端縁よりも前側には、少なくとも 2 枚の前記外装シート同士が接合されていない外装非接合領域が設けられている。

40

【図面の簡単な説明】

【0007】

50

【図 1】実施形態に係る吸収性物品の正面図である。

【図 2】実施形態に係る吸収性物品の平面図である。

【図 3】図 2 に示す吸収性物品の A - A 断面に沿った断面図である。

【図 4】図 2 に示す吸収性物品の B - B 断面に沿った断面図である。

【図 5】実施形態に係る吸収性物品の装着状態の断面を模式的に示した図である。

【図 6】比較例に係る吸収性物品の装着状態の断面を模式的に示した図である。

【発明を実施するための形態】

【0008】

(1) 実施形態の概要

本明細書及び添付図面の記載により、少なくとも以下の事項が明らかとなる。

10

一態様に係る吸収性物品は、前後方向と、前記前後方向に直交する幅方向と、前胴回り域と、後胴回り域と、前記前胴回り域と前記後胴回り域との間に配置された股下域と、吸収コアを有し、かつ前記股下域、前記前胴回り域及び前記後胴回り域に跨がって配置された吸収性本体と、前記吸収性本体と厚さ方向に重なり、前記前胴回り域に配置された前側外装体と、前記吸収性本体と厚さ方向に重なり、前記前胴回り域に配置された後側外装体と、前記前側外装体の前記幅方向の外側部と前記後側外装体の前記幅方向の外側部を接合するサイド接合部と、を有する吸収性物品であって、前記前側外装体は、複数の外装シートを有し、前記吸収性本体の前端縁よりも前側には、少なくとも 2 枚の前記外装シート同士が接合されていない外装非接合領域が設けられている。

【0009】

20

吸収性本体の前端縁よりも前側に外装非接合領域が設けられているため、外装シート同士が全て接合されている構成と比較して、吸収性本体の前端縁よりも前側の剛性が低くなる。吸収性本体の前端縁が前後方向の外側に向かって移動した際に、外装非接合領域が変形して力を吸収し、吸収性本体の前端縁が外装体を巻き込むように外装体の非肌対向側面に移動することを抑制できる。よって、前胴回り域における外装体の位置ずれを抑制し、着用者の腹部を覆い続けることができる。

【0010】

好ましい一態様によれば、外装非接合領域の少なくとも一部は、前記吸収コアと前記前後方向において重なって配置されている。

【0011】

30

吸収コアと前後方向において重なって配置される領域は、吸収コアから前側に向かう力が掛かり易い。当該領域の少なくとも一部に外装非接合領域を設けることにより、吸収性本体の前端縁が前側に向かって移動した際に、外装非接合領域が変形して力を吸収し、前側外装体の位置ずれをより抑制できる。

【0012】

好ましい一態様によれば、前記吸収コアの前記幅方向の全長を 3 等分した領域であって前記吸収コアの幅方向の中央に位置する中央領域を有し、前記外装非接合領域は、前記中央領域と前後方向において重なって配置されている。

【0013】

着用者の脚によって吸収コアが挟まれた状態で着用者が前後方向に脚を動かすと、吸収コアの幅方向の中央に力が集中し易く、吸収コアの前端部の形状は、幅方向の中央が幅方向の側部よりも前側に突出し易い。よって、中央領域と前後方向において重なって配置される領域には、吸収コアから前側に向かう力がより掛かり易い。当該領域にシート非接合領域を設けることにより、吸収性本体の前端縁が前側に向かって移動した際に、外装非接合領域が変形して力を吸収し、前胴回り域における外装体の位置ずれをより抑制できる。

40

【0014】

好ましい一態様によれば、前記外装非接合領域は、前記吸収コアの前記幅方向の全域と前記前後方向において重なって配置されている。

【0015】

吸収コアの幅方向の全域と前後方向に重なって配置される領域に外装非接合領域を設け

50

ることにより、吸収性本体の前端縁が前側に向かって移動した際に、外装非接合領域が変形して力を吸収し、前胴回り域における外装体の位置ずれを抑制できる。

【0016】

好ましい一態様によれば、前記外装シートは、前記吸収性本体の非肌対向面側に配置された外装非肌側シートと、前記吸収性本体の前端縁を覆い、かつ前記吸収性本体の肌対向面側に配置されたカバーシートと、を有し、前記外装非接合領域は、前記カバーシートと前記外装非肌側シートの間に設けられている。

【0017】

外装非肌側シートとカバーシートは、厚さ方向において吸収性本体を挟んで配置されており、吸収性本体からの力をより受けやすい。外装非肌側シートとカバーシートの間に外装非接合領域を設けることにより、吸収性本体の前端縁が前側に向かって移動した際に、外装非接合領域が変形して力をより吸収し易くなり、外装体の位置ずれをより抑制できる。

10

【0018】

好ましい一態様によれば、前記外装シートは、前記吸収性本体の非肌対向面側に配置された複数の外装非肌側シートを有し、前記外装非接合領域は、前記外装非肌側シート同士の間設けられている。

【0019】

外装非肌側シート同士の間設けられていることにより、吸収性本体の前端縁が前後方向の外側に向かって移動した際に、前側外装体が非肌対向面側にたたくように変形して力を吸収できる。前側外装体によって吸収性本体からの力を吸収することにより、前側外装体の位置ずれを抑制できる。

20

【0020】

好ましい一態様によれば、前記外装非接合領域よりも前側には、前記外装シート同士が接合された外装接合領域が設けられている。

【0021】

外装接合領域は、外装シート同士が接合されており、外装非接合領域よりも剛性が高くなり易い。また、吸収性本体が配置された領域も、外装非接合領域よりも剛性が高くなり易い。外装非接合領域は、剛性が高い領域によって前後方向に挟まれており、吸収性本体の前端縁が前側に向かって移動した際により変形して力を吸収し易くなる。よって、前側外装体の位置ずれをより抑制できる。

30

【0022】

好ましい一態様によれば、前記外装接合領域の前記前後方向の長さは、前記外装非接合領域の前記前後方向の長さよりも長い。

【0023】

外装接合領域は、外装非接合領域よりも剛性が高く、前後方向の長さが短くなり難い。外装接合領域の前後方向の長さを比較的長く設けることにより、前側外装体によって腰回りを覆う領域を確保し易い。

【0024】

好ましい一態様によれば、吸収性本体は、前記吸収コアよりも前側に延びる前端部を有し、前記外装シートは、前記吸収性本体の前端縁を覆い、かつ前記吸収性本体の肌対向面側に配置されたカバーシートを有し、前記吸収性本体の前端部には、前記吸収性本体と前記カバーシートが接合されていないカバー非接合領域が設けられている。

40

【0025】

カバー非接合領域は、吸収性本体と外装体が接合された領域と比較して剛性が低い。カバー非接合領域が設けられていることにより、吸収性本体から外装体へ力が伝わり難くなり、吸収性本体の前端縁よりも前側の領域に伝わる力を低減できる。前側外装体の変形を抑制し、前側外装対によって腰回りを覆い続け易い。

【0026】

好ましい一態様によれば、前記カバー非接合領域は、前記外装非接合領域と前記前後方向において連なっている。

50

【 0 0 2 7 】

カバー非接合領域と外装非接合領域が前後方向において連なっているため、吸収性本体の前端縁近傍に、吸収性本体からの力によって変形する領域を長く確保できる。前側外装体において吸収性本体からの力をより吸収し易くなり、前側外装体の位置ずれをより抑制できる。

【 0 0 2 8 】

好ましい一態様によれば、前記外装非接合領域の前記前後方向の長さは、前記カバー非接合領域の前記前後方向の長さよりも長い。

【 0 0 2 9 】

カバー非接合領域の前後方向の長さが外装非接合領域よりも長い構成と比較して、吸収性本体からの力によって変形する領域を前側外装体において確保でき、前側外装体の位置ずれをより抑制できる。

10

【 0 0 3 0 】

好ましい一態様によれば、前記カバー非接合領域の前記前後方向の長さは、前記外装非接合領域の前記前後方向の長さよりも長い。

【 0 0 3 1 】

外装非接合領域の前後方向の長さがカバー非接合領域よりも長い構成と比較して、吸収性本体からの力によって変形する領域をカバーシートにおいて確保でき、前側外装体の位置ずれをより抑制できる。

【 0 0 3 2 】

好ましい一態様によれば、吸収性本体は、前記吸収コアよりも前側に延びる前端部を有し、前記外装シートは、前記吸収性本体の非肌対向面側に配置された外装非肌側シートを有し、前記吸収性本体の前端部には、前記吸収性本体と前記外装非肌側シートが接合されていない本体非接合領域が設けられている。

20

【 0 0 3 3 】

本体非接合領域は、吸収性本体と外装非肌側シートが接合された領域と比較して剛性が低い。本体非接合領域が設けられていることにより、吸収性本体から外装体へ力が伝わり難くなり、吸収性本体の前端縁よりも前側の領域に伝わる力を低減できる。また、吸収性本体の非肌対向面側に本体非接合領域が設けられているため、前側外装体が非肌対向面側にたくれるように変形し易い。前側外装体によって吸収性本体からの力をより吸収でき、前側外装体の位置ずれを抑制できる。

30

【 0 0 3 4 】

好ましい一態様によれば、前記本体非接合領域は、前記外装非接合領域と前記前後方向において連なっている。

【 0 0 3 5 】

本体非接合領域と外装非接合領域が前後方向において連なっているため、吸収性本体の前端縁近傍に、吸収性本体からの力によって変形する領域を長く確保できる。前側外装体において吸収性本体からの力をより吸収し易くなり、前側外装体の位置ずれをより抑制できる。

【 0 0 3 6 】

好ましい一態様によれば、前記外装非接合領域の前記前後方向の長さは、前記本体非接合領域の前記前後方向の長さよりも長い。

40

【 0 0 3 7 】

本体非接合領域の前記前後方向の長さが外装非接合領域の長さよりも長い構成と比較して、前側外装体における吸収性本体からの力によって変形する領域を確保でき、前側外装体の位置ずれをより抑制できる。

【 0 0 3 8 】

好ましい一態様によれば、前記本体非接合領域の前記前後方向の長さは、前記外装非接合領域の前記前後方向の長さよりも長い。

【 0 0 3 9 】

50

本体非接合領域が吸収性本体の非肌対向面側に設けられているため、前側外装体が非肌対向面側にたくれるように変形し易い。前側外装体によって吸収性本体からの力をより吸収でき、前側外装体の位置ずれを抑制できる。

【 0 0 4 0 】

好ましい一態様によれば、吸収性本体は、前記吸収コアよりも前側に延びる前端部を有し、前記外装シートは、前記吸収性本体の非肌対向面側に配置された外装非肌側シートと、前記吸収性本体の前端縁を覆い、かつ前記吸収性本体の肌対向面側に配置されたカバーシートと、を有し、前記吸収性本体の前端部には、前記吸収性本体と前記カバーシートが接合されていないカバー非接合領域と、前記吸収性本体と前記外装非肌側シートが接合されていない本体非接合領域と、が設けられており、前記本体非接合領域の前記前後方向の長さは、前記カバー非接合領域の前記前後方向の長さよりも長い。

10

【 0 0 4 1 】

本体非接合領域は、吸収性本体の非肌対向面側に配置され、カバー非接合領域は、吸収性本体の肌対向面側に配置されている。本体非接合領域の前後方向の長さが比較的長いいため、前側外装体が非肌対向面側にたくれるように変形し易い。前側外装体によって吸収性本体からの力をより吸収でき、前側外装体の位置ずれを抑制できる。

【 0 0 4 2 】

(2) 吸収性物品の全体概略構成

以下、図面を参照して、実施形態に係る吸収性物品について説明する。なお、以下の図面の記載において、同一又は類似の部分には、同一又は類似の符号を付している。ただし、図面は模式的なものであり、各寸法の比率等は現実のものとは異なることに留意すべきである。したがって、具体的な寸法等は、以下の説明を参酌して判断すべきである。また、図面相互間においても互いの寸法の関係や比率が異なる部分が含まれ得る。

20

【 0 0 4 3 】

吸収性物品は、パンツ型であってもよい。吸収性物品は、使い捨ておむつであってもよいし、ショーツ型生理用ナプキンであってもよい。第 1 実施形態の吸収性物品は、パンツ型の使い捨ておむつである。図 1 は、本実施形態に係る吸収性物品 10 の模式正面図である。図 2 は、本実施形態に係る吸収性物品 10 の模式平面図である。図 2 に示す模式平面図は、後述するサイド接合部 60 を展開した状態において吸収性物品 10 を皺が形成されない状態まで伸長させた伸長状態を示している。図 3 は、図 2 に示す A - A 線に沿った断面図であり、図 4 は、図 2 に示す B - B 断面に沿った断面図である。

30

【 0 0 4 4 】

吸収性物品 10 は、互いに直交する前後方向 L 及び幅方向 W を有する。前後方向 L は、身体前側と身体後側とに延びる方向によって規定される。言い換えると、前後方向 L は、展開された吸収性物品 10 において前後に延びる方向である。また、吸収性物品 10 は、前後方向 L と幅方向 W の両方の直交する厚さ方向 T を有する。

【 0 0 4 5 】

吸収性物品 10 は、前胴回り域 S 1 と、後胴回り域 S 2 と、股下域 S 3 と、を有する。前胴回り域 S 1 は、着用者の前胴回り（腹部）に対向する領域である。後胴回り域 S 2 は、着用者の後胴回り（背部）に対向する領域である。股下域 S 3 は、着用者の股下に位置し、前胴回り域 S 1 と後胴回り域 S 2 との間に配置された領域である。

40

【 0 0 4 6 】

本実施形態では、吸収性物品 10 は、外装体 15 と、吸収性本体 40 と、を有してよい。外装体 15 は、吸収性本体 40 と厚さ方向に重なっている。外装体 15 は、前側外装体 20 と、後側外装体 30 と、を有してよい。前側外装体 20 は、前胴回り域 S 1 において吸収性本体 40 の非肌対向面側 T 2 及び吸収性本体 40 の肌対向面側 T 1 に配置されている外装体である。後側外装体 30 は、前側外装体 20 と前後方向 L に離間し、かつ後胴回り域 S 2 において吸収性本体 40 の非肌対向面側 T 2 に配置されている外装体である。

【 0 0 4 7 】

股下域 S 3 は、後述する脚回り開口部 72（図 1 参照）が形成された領域である。前胴

50

回り域 S 1 の股下域側の境界は、脚回り開口部 7 2 の前端縁であり、後胴回り域 S 2 の股下域側の境界は、脚回り開口部 7 2 の後端縁である。なお、他の実施形態において、外装体 1 5 は、前側外装体 2 0 及び後側外装体 3 0 が一体化され、かつ前胴回り域 S 1 から後胴回り域 S 2 に亘って設けられていてもよい。

【 0 0 4 8 】

前側外装体 2 0 及び後側外装体 3 0 は、例えば不織布のようなシートから構成されていてよい。前側外装体 2 0 は、複数の外装シートを有してよい。複数の外装シートは、吸収性本体 4 0 の非肌対向面側 T 2 に位置する外装非肌側シートと、吸収性本体 4 0 の肌対向面側 T 1 に位置するカバーシート 2 7 と、を有してよい。外装非肌側シートは、第 1 外装非肌側シート 2 5 と、第 1 外装非肌側シート 2 5 の非肌対向面側 T 2 に位置する第 2 外装非肌側シート 2 6 と、を有してよい。カバーシート 2 7 は、複数の外装非肌側シートの少なくとも一方が肌対向面側 T 1 に折り返された部分によって構成されてもよいし、外装非肌側シートとは別体のシートによって構成されてもよい。後側外装体 3 0 は、複数の外装シートを有してよい。

10

【 0 0 4 9 】

図 1 に示すように、幅方向 W における前胴回り域 S 1 の外側部と、幅方向 W における後胴回り域 S 2 の外側部と、を接合したサイド接合部 6 0 が設けられていてよい。図 2 は、サイド接合部 6 0 における接合を解除し、吸収性物品 1 0 を展開した状態を示している。サイド接合部 6 0 は、前側外装体 2 0 及び後側外装体 3 0 のそれぞれにおいて、前後方向 L に沿って延びていてよい。

20

【 0 0 5 0 】

なお、本発明における外側部とは、幅方向 W における外縁を含む幅方向 W に一定の範囲を占める部分であり、外側縁とは、幅方向 W における外縁である。本発明における内側部とは、幅方向 W における内縁を含む幅方向 W に一定の範囲を占める部分であり、内側縁とは、幅方向 W における内縁である。また、本発明における前端部及び後端部は、前後方向 L における縁を含む前後方向 L に一定の範囲を占める部分であり、前端縁及び後端縁は、前後方向 L における縁である。外端部は、前端部及び後端部を含んでおり、外端縁は、前端縁及び後端縁を含んでいる。

【 0 0 5 1 】

図 1 に示すように、サイド接合部 6 0 が形成された状態で、吸収性物品 1 0 には、着用者の胸が通される胴回り開口部 7 1 と、着用者の脚がそれぞれ挿入される一对の脚回り開口部 7 2 と、が形成される。胴回り開口部 7 1 は、前胴回り域 S 1 の前端縁 S 1 F である前側外装体の前端縁 2 0 F と、後胴回り域 S 2 の後端縁 S 2 R である後側外装体 3 0 の後端縁 3 0 R とによって規定されていてよい。また、脚回り開口部 7 2 は、吸収性本体 4 0 よりも幅方向 W の外側に延出した前側外装体 2 0 の後端縁 2 0 R と、吸収性本体 4 0 よりも幅方向 W の外側に延出した後側外装体 3 0 の前端縁 3 0 F と、股下域 S 3 における吸収性本体 4 0 の外側縁 4 0 E と、によって規定されていてよい。

30

【 0 0 5 2 】

吸収性本体 4 0 は、前側外装体 2 0 と後側外装体 3 0 を跨って配置されている。すなわち、吸収性本体 4 0 は、前胴回り域 S 1、後胴回り域 S 2 及び股下域 S 3 にわたって延びている。吸収性本体 4 0 は、前側外装体 2 0 及び後側外装体 3 0 とは別体として構成されていてよい。吸収性本体 4 0 は、非肌対向面側 T 2 に前側外装体 2 0 又は後側外装体 3 0 が配置された領域、外装体 1 5 と厚さ方向 T に重なっていない領域、及び前側外装体 2 0 とカバーシートによって厚さ方向に挟まれた領域を有してよい。

40

【 0 0 5 3 】

吸収性本体 4 0 は、少なくとも吸収コア 5 0 を含んでいる。吸収コア 5 0 は、例えば粉碎パルプもしくは高吸収性ポリマー (SAP)、又はこれらの混合物を含んでいてよい。吸収コア 5 0 は、少なくとも股下域 S 3 に配置されている。好ましくは、吸収コア 5 0 は、前後方向 L において、前胴回り域 S 1 から後胴回り域 S 2 にわたって延びていてよい。吸収コア 5 0 は、コアラップによって覆われていてよい。

50

【 0 0 5 4 】

図 2 に示すように、吸収性本体 4 0 は、吸収コア 5 0 よりも前側に延びる前端部 4 5 を有してよい。前端部 4 5 は、前後方向 L において吸収コア 5 0 の前端縁 5 0 F と吸収性本体 4 0 の前端縁 4 0 F の間の領域であり、幅方向 W において吸収性本体 4 0 の一方の外側縁 4 0 E から他方の外側縁 4 0 E までの領域である。図 3 及び図 4 において、前端部 4 5 の前後方向の範囲及び幅方向の範囲を示す。また、吸収性本体 4 0 は、吸収コア 5 0 の幅方向 W の中央に位置する中央領域 C R を有してよい。中央領域 C R は、吸収コア 5 0 の幅方向 W の全長を 3 等分した領域のうち、幅方向 W の中央に位置する領域である。

【 0 0 5 5 】

図 3 及び図 4 に示すように、吸収性本体 4 0 は、液不透過シート 4 1 と、液不透過シート 4 1 と厚さ方向 T に重なる本体シート 4 2 と、を少なくとも有してよい。液不透過シート 4 1 及び本体シート 4 2 は、少なくとも前端部 4 5 に配置されてよい。液不透過シート 4 1 及び本体シート 4 2 は、吸収コア 5 0 と重なる領域と前端部 4 5 とに跨がって配置されてもよい。液不透過シート 4 1 は、吸収コア 5 0 よりも非肌対向面側 T 2 に配置されてよい。本体シート 4 2 は、液不透過シート 4 1 よりも肌対向面側 T 1、かつ吸収コア 5 0 よりも肌対向面側 T 1 に配置された第 1 本体シート 4 2 A と、液不透過シート 4 1 よりも非肌対向面側 T 2 に配置された第 2 本体シート 4 2 B と、を有してよい。

10

【 0 0 5 6 】

本実施の形態の吸収性本体 4 0 の前端部 4 5 では、肌対向面側 T 1 から非肌対向面側 T 2 に向かって、第 1 本体シート 4 2 A、液不透過シート 4 1、第 2 本体シート 4 2 B の順で配置されている。本実施の形態の吸収コア 5 0 と重なった領域では、肌対向面側 T 1 から非肌対向面側 T 2 に向かって、第 1 本体シート 4 2 A、吸収コア 5 0、液不透過シート 4 1、第 2 本体シート 4 2 B の順で配置されている。第 1 本体シート 4 2 A と液不透過シート 4 1 は、厚さ方向 T において吸収コア 5 0 を挟んで配置されてよい。

20

【 0 0 5 7 】

液不透過シート 4 1 は、透不液性であればよく、例えば、フィルムによって構成されてよい。液不透過シート 4 1 は、1 枚のシートから構成されていてもよい。この代わりに、液不透過シート 4 1 は、複数枚のシートが互いに積層された積層シートから構成されていてもよい。この場合、複数枚のシートのうちの少なくとも 1 枚が透不液性を有してよい。

30

【 0 0 5 8 】

本体シート 4 2 は、透液性であればよく、例えば不織布によって構成されていてよい。本体シート 4 2 は、1 枚のシートから構成されていてもよい。この代わりに、本体シート 4 2 は、複数枚のシートが互いに積層された積層シートから構成されていてもよい。

【 0 0 5 9 】

このように構成された吸収性物品は、接合領域と非接合領域を有する。接合領域は、外装体 1 5 と吸収性本体 4 0 が接合された領域、吸収性本体 4 0 の液不透過シート 4 1 及び本体シート 4 2 が接合された領域、及び外装体の外装シートが接合された領域を含む。非接合領域は、外装体 1 5 と吸収性本体 4 0 が接合されていない領域、吸収性本体 4 0 の液不透過シート 4 1 及び本体シート 4 2 が接合されていない領域、及び外装体の外装シートが接合されていない領域を含む。なお、本発明における非接合領域は、接着剤が塗布されていない領域のみならず、接着剤が僅かに塗布されているが、当該接着剤を介して部材同士が接着されていない領域も含むものである。

40

【 0 0 6 0 】

図 3 及び 4 に示すように、吸収性物品 1 0 は、少なくとも 2 枚の外装シート同士が接合されていない外装非接合領域 N E を有してよい。外装非接合領域 N E は、外装シートを構成する第 1 外装非肌側シート 2 5、第 2 外装非肌側シート 2 6 及びカバーシート 2 7 のうち、2 枚の外装シート同士が接合されていない領域である。外装非接合領域 N E は、吸収性本体 4 0 の前端縁 4 0 F よりも前側に設けられてよい。

【 0 0 6 1 】

50

このように構成された吸収性物品 10 によれば、着用者の脚を動きによって前胴回り域 S1 における外装体 15 の位置ずれを抑制できる。図 5 及び図 6 は、吸収性物品の装着状態の断面を模式的に示した図であり、着用者の腹部及び吸収性物品の前胴回り域を模式的に示している。図 5 及び図 6 に示す一点鎖線は、着用者の身体のラインを示している。図 5 は、実施の形態に係る吸収性物品の装着状態を示しており、図 6 は、比較例に係る吸収性物品の装着状態を示している。図 5 (A) 及び図 6 (A) は、変形前の状態を示しており、図 5 (B) 及び図 6 (B) は、脚を前後に動かした変形状態を示している。

【0062】

図 6 に示すように、比較例に係る吸収性物品 100 の吸収性本体 40 よりも前側には、外装非接合領域 NE が設けられていない。比較例に係る吸収性物品 100 は、吸収性本体 40 の前端縁よりも前側において外装シート同士が接合された接合領域 R101 を有する。このように構成された吸収性物品 100 を着用した着用者が脚を前後に動かすと、吸収性本体 40 も前後方向に移動し、吸収性本体 40 の前端縁 40F が前側に向かって移動する。このとき、吸収性本体の前端縁が、前側外装体 20 を巻き込むように前側外装体 20 の非肌対向面側 T2 に移動してしまうことがある。吸収性本体 40 の前端縁 40F が前側外装体 20 の非肌対向面側 T2 に移動した状態では、吸収性本体 40 と着用者の間に前側外装体 20 が挟まれている。当該状態において吸収性本体の前端縁が元の位置に戻るよう後側に向かって移動すると、吸収性本体と共に外装体が股下域側に向かって移動し易い。これにより、前胴回り域において外装体の位置ずれ、着用者の腹部を覆い続けることができないことがある。

【0063】

図 5 に示すように、実施の形態に係る吸収性物品 10 の吸収性本体 40 よりも前側には、外装非接合領域 NE が設けられている。実施形態に係る吸収性物品 10 は、吸収性本体の前端縁よりも前側に外装非接合領域が設けられているため、全ての外装シート同士が接合されている構成と比較して、吸収性本体の前端縁よりも前側の剛性が低くなる。吸収性本体の前端縁が前後方向の外側に向かって移動した際に、外装非接合領域が変形して力を吸収し、吸収性本体の前端縁が外装体を巻き込むように外装体の非肌対向面側に移動することを抑制できる。よって、吸収性本体と共に外装体が股下域側に向かって移動し難くなる。前胴回り域における外装体の位置ずれを抑制し、着用者の腹部を覆い続けることができる。

【0064】

外装非接合領域 NE は、前側外装体 20 の一部に設けられていてもよいし、前側外装体 20 の全域に設けられてもよい。外装非接合領域 NE の前端縁は、前側外装体 20 の前端縁 20F に一致してよいし、吸収性本体 40 の前端縁 40F よりも後側に位置してもよい。外装非接合領域 NE の後端縁は、吸収性本体 40 の前端縁 40F よりも前側に位置してよいし、吸収性本体 40 の前端縁 40F よりも後側に位置してよいし、吸収性本体 40 の前端縁 40F に一致してもよい。外装非接合領域 NE の外側縁は、吸収性本体 40 の外側縁 40E に一致してもよいし、吸収性本体 40 の外側縁 40E よりも幅方向 W の外側に位置してもよい。

【0065】

好適には、外装非接合領域 NE の少なくとも一部は、吸収コア 50 と前後方向 L において重なって配置されてよい。吸収コア 50 と前後方向 L において重なって配置される領域は、吸収コア 50 から前側に向かう力が掛かり易い。当該領域の少なくとも一部に外装非接合領域 NE を設けることにより、吸収性本体 40 の前端縁 40F が前側に向かって移動した際に、外装非接合領域 NE が変形して力を吸収し、前側外装体 20 の位置ずれをより抑制できる。

【0066】

より好適には、外装非接合領域 NE は、中央領域 CR と前後方向 L において重なって配置されていてよい。着用者の脚によって吸収コア 50 が挟まれた状態で着用者が前後方向に脚を動かすと、吸収コア 50 の幅方向 W の中央に力が集中し易く、吸収コア 50 の前端

部 4 5 の形状は、幅方向 W の中央が幅方向 W の側部よりも前側に突出し易い。よって、中央領域 C R と前後方向 L において重なって配置されている領域には、吸収コア 5 0 から前側に向かう力がより掛かり易い。当該領域に外装非接合領域 N E を設けることにより、吸収性本体 4 0 の前端縁 4 0 F が前側に向かって移動した際に、外装非接合領域 N E が変形して力を吸収し、前胴回り域 S 1 における外装体の位置ずれをより抑制できる。

【 0 0 6 7 】

より好適には、外装非接合領域 N E は、吸収コア 5 0 の幅方向 W の全域と前後方向において重なって配置されていてよい。吸収コア 5 0 の幅方向 W と前後方向に重なって配置される領域に外装非接合領域 N E を設けることにより、吸収性本体 4 0 の前端縁 4 0 F が前側に向かって移動した際に、外装非接合領域 N E が変形して力を吸収し、前胴回り域 S 1 における外装体の位置ずれを抑制できる。

10

【 0 0 6 8 】

外装非接合領域 N E は、カバーシート 2 7 と外装非肌側シートの間設けられてよい。外装非肌側シートとカバーシートは、厚さ方向において吸収性本体を挟んで配置されており、吸収性本体からの力をより受けやすい。外装非肌側シートとカバーシートの間に外装非接合領域を設けることにより、吸収性本体の前端縁が前側に向かって移動した際に、外装非接合領域が変形して力をより吸収し易くなり、外装体の位置ずれをより抑制できる。

【 0 0 6 9 】

外装非接合領域 N E は、外装非肌側シート同士の間、すなわち、第 1 外装非肌側シート 2 5 と第 2 外装非肌側シート 2 6 の間に設けられてもよい。外装非肌側シート同士の間外装非接合領域が設けられていることにより、吸収性本体の前端縁が前後方向の外側に向かって移動した際に、前側外装体が非肌対向面側にたくれるように変形して力を吸収できる。前側外装体によって吸収性本体からの力を吸収することにより、前側外装体の位置ずれを抑制できる。

20

【 0 0 7 0 】

外装非接合領域 N E よりも前側には、外装シート同士が接合された外装接合領域 A E が設けられてよい。外装シート接合領域は、カバーシート 2 7 が外装非肌側シートに接合された領域と、外装非肌側シート同士が接合された領域と、を含んでよい。外装接合領域は、外装シート同士が接合されており、外装非接合領域よりも剛性が高くなり易い。また、吸収性本体 4 0 が配置された領域も、外装非接合領域よりも剛性が高くなり易い。外装非接合領域は、剛性が高い領域によって前後方向に挟まれており、吸収性本体 4 0 の前端縁 4 0 F が前側に向かって移動した際により変形して力を吸収し易くなる。よって、前側外装体 2 0 の位置ずれをより抑制できる。

30

【 0 0 7 1 】

外装接合領域 A E の前後方向 L の長さは、外装非接合領域 N E の前後方向 L の長さよりも長くてよい。外装接合領域 A E は、外装非接合領域 N E よりも剛性が高く、前後方向 L の長さが短くなり難い。外装接合領域 A E の前後方向 L の長さを比較的長く設けることにより、前側外装体 2 0 によって腰回りを覆う領域を確保し易い。

【 0 0 7 2 】

吸収性物品 1 0 は、吸収性本体 4 0 とカバーシート 2 7 が接合されていないカバー非接合領域 N C と、吸収性本体 4 0 とカバーシート 2 7 が接合されたカバー接合領域 A C と、を有してよい。カバー非接合領域 N C は、吸収性本体 4 0 を構成するシートのうち、カバーシート 2 7 と対向して配置されたシートと、カバーシート 2 7 と、が接合されていない領域であってよい。カバー接合領域 A C は、吸収性本体 4 0 を構成するシートのうち、カバーシート 2 7 と対向して配置されたシートと、カバーシート 2 7 と、が接合された領域であってよい。カバー非接合領域 N C は、カバーシート 2 7 と吸収性本体 4 0 が接合された領域と比較して剛性が低くなり、変形し易い領域である。

40

【 0 0 7 3 】

カバー非接合領域 N C は、吸収性本体 4 0 の前端部 4 5 に設けられていてよい。カバー非接合領域 N C は、吸収性本体 4 0 と外装体 1 5 が接合された領域と比較して剛性が低い

50

。カバー非接合領域NCが設けられていることにより、吸収性本体40から外装体15へ力が伝わり難くなり、吸収性本体40の前端縁40Fよりも前側の領域に伝わる力を低減できる。よって、前側外装体20の位置ずれをより抑制できる。

【0074】

カバー非接合領域NCは、外装非接合領域NEと前後方向Lにおいて連なってよい。カバー非接合領域NCと外装非接合領域NEは、厚さ方向においてずれていてもよく、前後方向において連なっていればよい。カバー非接合領域と外装非接合領域が前後方向において連なっていることにより、吸収性本体の前端縁近傍に、吸収性本体からの力によって変形する領域を長く確保できる。前側外装体において吸収性本体からの力をより吸収し易くなり、前側外装体の位置ずれをより抑制できる。

10

【0075】

外装非接合領域NEの前後方向の長さは、カバー非接合領域NCの前後方向の長さよりも長くてよい。カバー非接合領域の前後方向の長さが外装非接合領域よりも長い構成と比較して、吸収性本体からの力によって変形する領域を前側外装体において確保でき、前側外装体の位置ずれをより抑制できる。

【0076】

また、他の形態において、カバー非接合領域の前後方向の長さは、外装非接合領域の前後方向の長さよりも長くてよい。外装非接合領域の前後方向の長さがカバー非接合領域よりも長い構成と比較して、吸収性本体からの力によって変形する領域をカバーシートにおいて確保でき、前側外装体の位置ずれをより抑制できる。

20

【0077】

吸収性物品10は、吸収性本体40と外装非肌側シートが接合されていない本体非接合領域NBを有してよい。本体非接合領域NBは、吸収性本体40を構成するシートのうち、外装非肌側シートと対向して配置されたシートと、外装非肌側シートと、が接合されていない領域であってよい。具体的には、吸収性本体40の非肌対向面の全面に第2本体シート42Bが配置された形態にあつては、第2本体シート42Bと外装非肌側シートが接合されていない領域であつてよい。吸収性本体40の非肌対向面に第2本体シート42B及び液不透過シート41が配置された形態にあつては、第2本体シート42Bと外装非肌側シートが接合されていない領域と、液不透過シート41と外装非肌側シートが接合されていない領域と、を含んでよい。本体非接合領域NBの少なくとも一部は、前端部45に設けられていてよい。本体非接合領域NBは、前端部45の全域に設けられてもよいし、前端部45の一部に設けられていてもよい。

30

【0078】

本体非接合領域NBは、吸収性本体と外装非肌側シートが接合された領域と比較して剛性が低い。本体非接合領域が設けられていることにより、吸収性本体から外装体へ力が伝わり難くなり、吸収性本体の前端縁よりも前側の領域に伝わる力を低減できる。また、吸収性本体の非肌対向面側に本体非接合領域が設けられているため、前側外装体が非肌対向面側にたくれるように変形し易い。前側外装体によって吸収性本体からの力をより吸収でき、前側外装体の位置ずれを抑制できる。

【0079】

本体非接合領域NBは、外装非接合領域NEと前後方向において連なってよい。カバー非接合領域NCと外装非接合領域NEは、厚さ方向においてずれていてもよく、前後方向において連なっていればよい。本体非接合領域NBと外装非接合領域NEが前後方向において連なっていることにより、吸収性本体の前端縁近傍に、吸収性本体からの力によって変形する領域を長く確保できる。前側外装体において吸収性本体からの力をより吸収し易くなり、前側外装体の位置ずれをより抑制できる。

40

【0080】

外装非接合領域NEの前後方向Lの長さは、本体非接合領域NBの前後方向Lの長さよりも長くてよい。本体非接合領域NBの前後方向Lの長さが外装非接合領域NEの長さよりも長い構成と比較して、吸収性本体40からの力によって変形する領域を前側外装体2

50

0において確保できる。よって、前側外装体20の位置ずれをより抑制できる。

【0081】

また、他の形態において、本体非接合領域NBの前後方向Lの長さは、外装非接合領域NEの前後方向Lの長さよりも長くてもよい。本体非接合領域NBが吸収性本体40の非肌対向面側T2に設けられているため、前側外装体20が非肌対向面側T2にたくれるように変形し易い。前側外装体20によって吸収性本体40からの力をより吸収でき、前側外装体20の位置ずれを抑制できる。

【0082】

本体非接合領域NBの前後方向Lの長さは、カバー非接合領域NCの前後方向Lの長さよりも長くてもよい。本体非接合領域NBは、吸収性本体40の非肌対向面側T2に配置され、カバー非接合領域NCは、吸収性本体40の肌対向面側T1に配置されている。本体非接合領域NBの前後方向Lの長さが比較的長いため、前側外装体20が非肌対向面側にたくれるように変形し易い。前側外装体によって吸収性本体からの力をより吸収でき、前側外装体の位置ずれを抑制できる。

10

【0083】

吸収性物品10は、液不透過シート41と本体シート42が接合されていないシート非接合領域NSを有してよい。シート非接合領域NSの少なくとも一部は、前端部45に設けられていてよい。シート非接合領域NSは、前端部45の全域に設けられてもよいし、前端部45の一部に設けられていてもよい。

【0084】

吸収性物品10は、シート非接合領域NSと本体非接合領域NBとが重なる重複領域DRを有してよい。重複領域DRは、シート非接合領域NSと本体非接合領域NBとが厚さ方向Tに重なる領域である。重複領域DRの少なくとも一部は、前端部45に設けられていてよい。重複領域DRは、前端部45の全域に設けられてもよいし、前端部45の一部に設けられていてもよい。

20

【0085】

また、吸収性本体40の前端部45に重複領域DRが設けられているため、吸収コア50から前側に移動する力がかかった際に重複領域DRがより変形し易い。吸収性本体40の前端部45が変形することにより、吸収性本体40の前端縁40Fよりも前側の領域に伝わる力を低減でき、前側外装体20の位置ずれを抑制し、着用者の腹部を覆い続けることができる。

30

【0086】

シート非接合領域NSの前端縁及び本体非接合領域NBの前端縁は、吸収性本体40の前端縁40Fに一致してよいし、吸収性本体40の前端縁40Fよりも後側に位置してもよい。シート非接合領域NSの後端縁及び本体非接合領域NBの後端縁は、吸収コア50の前端縁50Fよりも前側に位置してよいし、吸収コア50の前端縁50Fよりも後側に位置してよいし、吸収コア50の前端縁50Fに一致してもよい。シート非接合領域NSの外側縁及び本体非接合領域NBの外側縁は、吸収性本体40の外側縁40Eに一致してもよいし、吸収性本体40の外側縁40Eよりも幅方向Wの内側に位置してもよい。好適には、本体非接合領域NB及びシート非接合領域NSは、吸収性本体40の前端縁に設けられてよい。吸収性本体40の前端縁には、本体非接合領域NBとシート非接合領域NSの両方が設けられているため、より変形し易くなる。吸収コア50による変形を吸収性本体40の前端縁によって吸収し、吸収性本体40の前端縁40Fよりも前側の領域に伝わる力を低減でき、前側外装体20の位置ずれを抑制し、着用者の腹部を覆い続けることができる。

40

【0087】

吸収性物品10は、シート非接合領域NSよりも股下域側において液不透過シート41と本体シート42が接合されたシート接合領域ASを有してよい。シート接合領域ASは、前後方向においてシート非接合領域NSに隣接している。シート接合領域ASは、シート非接合領域NSにおいて接合されていないシート同士を接合する領域である。

50

【 0 0 8 8 】

厚さ方向において吸収コア 5 0 を挟み、かつ吸収コア 5 0 と前端部 4 5 を跨ぐシート間に、シート非接合領域 N S が設けられている形態にあつては、シート非接合領域 N S の股下域側の内端縁、すなわち、シート接合領域 A S の前端縁は、吸収コア 5 0 よりも前側に配置されてよい。シート非接合領域 N S の股下域側の内端縁は、吸収コア 5 0 よりも前側に配置されてよい。シート非接合領域 N S の股下域側の内端縁が吸収コア 5 0 よりも前側に位置するため、吸収コア 5 0 よりも前側にシート接合領域 A S が設けられる。液不透過シート 4 1 と本体シートが接合された領域によって吸収コア 5 0 を構成する吸収材料が吸収性本体 4 0 外へ漏れることを抑制できる。

【 0 0 8 9 】

シート非接合領域 N S は、液不透過シート 4 1 が第 1 本体シート 4 2 A に接合されていない領域、液不透過シート 4 1 が第 2 本体シート 4 2 B に接合されていない領域、及び液不透過シート 4 1 が第 1 本体シート 4 2 A 及び第 2 本体シート 4 2 B に接合されていない領域のいずれかであつてよい。好適には、シート非接合領域 N S では、液不透過シート 4 1 は、第 1 本体シート 4 2 A に接合されていなく、かつ第 2 本体シート 4 2 B に接合されてなくてよい。液不透過シート 4 1 が第 1 本体シート及び第 2 本体シートに接合されていないため、液不透過シート 4 1 がより変形し易くなる。よつて、吸収性本体 4 0 の前端部 4 5 がより変形し易くなり、吸収性本体 4 0 の前端縁 4 0 F よりも前側の領域に伝わる力を低減でき、前側外装体 2 0 の位置ずれを抑制し、着用者の腹部を覆い続けることができる。

【 0 0 9 0 】

シート非接合領域 N S と本体非接合領域 N B の前後方向の位置関係は、限定されない。シート非接合領域 N S の前端縁は、本体非接合領域 N B の前端縁よりも前側であつてもよいし、本体非接合領域 N B の前端縁よりも後側であつてもよい。シート非接合領域 N S の後端縁は、本体非接合領域 N B の後端縁よりも前側であつてもよいし、本体非接合領域 N B の後端縁よりも後側であつてもよい。好適には、シート非接合領域 N S は、本体非接合領域 N B よりも股下域側に延出してよい。液不透過シート 4 1 は、液透過シートと比較して剛性が高いものが多く、シート非接合領域 N S は、本体非接合領域 N B よりも剛性を低くする効果を得やすい。シート非接合領域 N S が本体非接合領域 N B よりも股下域側に延出していることにより、吸収性本体 4 0 の変形によって吸収コア 5 0 の変形を吸収する効果をより得易い。

【 0 0 9 1 】

シート非接合領域 N S と本体非接合領域 N B の幅方向 W の位置関係は、限定されない。シート非接合領域 N S の外端縁は、本体非接合領域 N B の外側縁よりも外側であつてもよいし、本体非接合領域 N B の外側縁よりも内側であつてもよい。好適には、シート非接合領域 N S は、本体非接合領域 N B よりも幅方向 W の外側に延出してよい。

【 0 0 9 2 】

シート非接合領域 N S は、カバー非接合領域 N C の少なくとも一部に厚さ方向に重なつて配置されてよい。吸収性本体 4 0 の前端部 4 5 は、カバーシート 2 7 に接合されてなく、カバーシート 2 7 に対して移動し易い。着用者の肌側に位置するカバーシート 2 7 が肌に密着し、カバーシート 2 7 が変形し難い場合であつても、吸収性本体 4 0 の前端部 4 5 が変形し易く、外装体 1 5 が浮き上がる変形を抑制し、前胸回り域及び後胸回り域における外装体 1 5 の位置ずれを抑制できる。

【 0 0 9 3 】

また、カバー接合領域 A C は、シート非接合領域 N S の一部に厚さ方向に重なつて配置されてよい。シート非接合領域 N S とカバー接合領域 A C が重なつた領域とシート非接合領域 N S とカバー接合領域 A C が重なっていない領域と、が設けられてよい。シート非接合領域 N S とカバー接合領域 A C が重なつた領域とシート非接合領域 N S とカバー接合領域 A C が重なっていない領域と、は、剛性が異なる。当該 2 つの領域によって吸収コア 5 0 から力を受けた際に段階的に変形し、吸収コア 5 0 から受けた力をより吸収し易い。よ

10

20

30

40

50

って、吸収性本体 40 から前側に向かう力を前側外装体 20 により伝わり難くでき、前側外装体 20 の位置ずれを抑制できる。

【0094】

カバー接合領域 AC は、シート接合領域 AS に厚さ方向 T に重なって配置されてよい。カバー接合領域 AC とシート接合領域 AS が重なっている領域は、カバー接合領域 AC とシート非接合領域 NS が重なっている領域やカバー非接合領域 NC とシート非接合領域 NS が重なっている領域と比較して剛性が高い。当該剛性の高い領域がシート非接合領域 NS よりも股下域側に設けられているため、吸収コア 50 から前後方向の外側に向かう力を当該剛性の高い領域を介してシート材及びカバーシート 27 に分散できる。シート材及びカバーシート 27 の両方で吸収コア 50 から受けた力をより吸収し易い。よって、吸収性

10

【0095】

以上、上述の実施形態を用いて本発明について詳細に説明したが、当業者にとっては、本発明が本明細書中に説明した実施形態に限定されるものではないということは明らかである。本発明は、特許請求の範囲の記載により定まる本発明の趣旨及び範囲を逸脱することなく修正及び変更態様として実施することができる。したがって、本明細書の記載は、例示説明を目的とするものであり、本発明に対して何ら制限的な意味を有するものではない。

【産業上の利用可能性】

20

【0096】

着用者の脚を動きによって前胴回り域における外装体の位置ずれを抑制できる吸収性物品を提供することができる。

【符号の説明】

【0097】

- 10 吸収性物品
- 15 外装体
- 20 前側外装体
- 25 第1外装非肌側シート(外装シート)
- 26 第2外装非肌側シート(外装シート)
- 27 カバーシート(外装シート)
- 30 後側外装体
- 40 吸収性本体
- 41 : 液不透過シート
- 42 A : 第1本体シート(本体シート)
- 42 B : 第2本体シート(本体シート)
- 50 吸収コア
- 60 サイド接合部
- AC カバー接合領域
- AE 外装接合領域
- AS シート接合領域
- DR 重複領域
- NB 本体非接合領域
- NC カバー非接合領域
- NE 外装非接合領域
- NS シート非接合領域
- S1 前胴回り域
- S2 後胴回り域
- S3 股下域
- L 前後方向

30

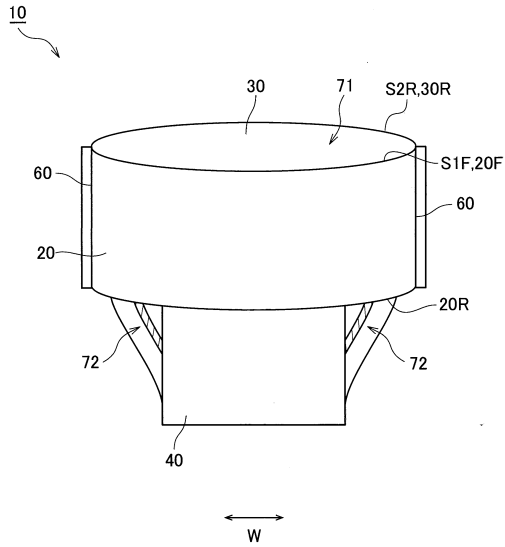
40

50

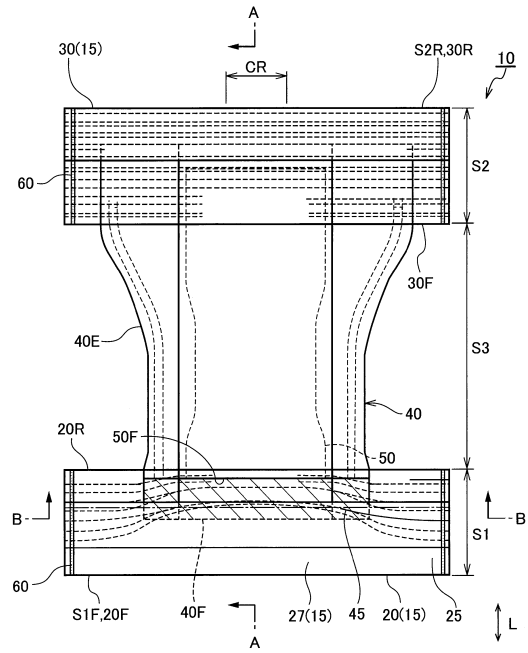
W 幅方向

【図面】

【図 1】



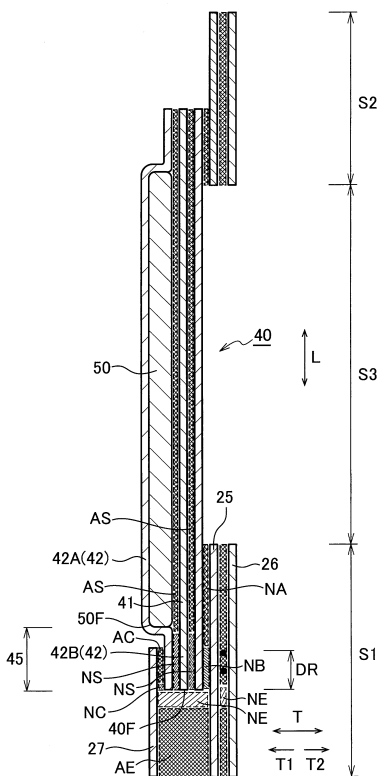
【図 2】



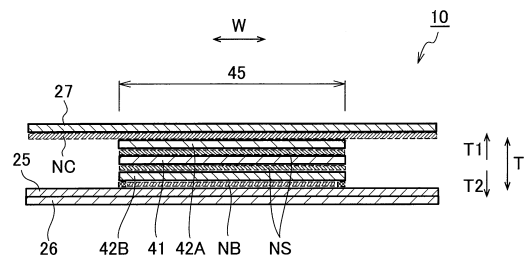
10

20

【図 3】



【図 4】

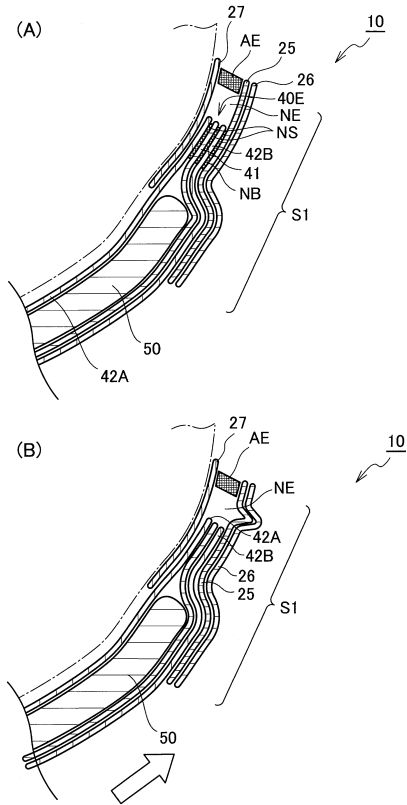


30

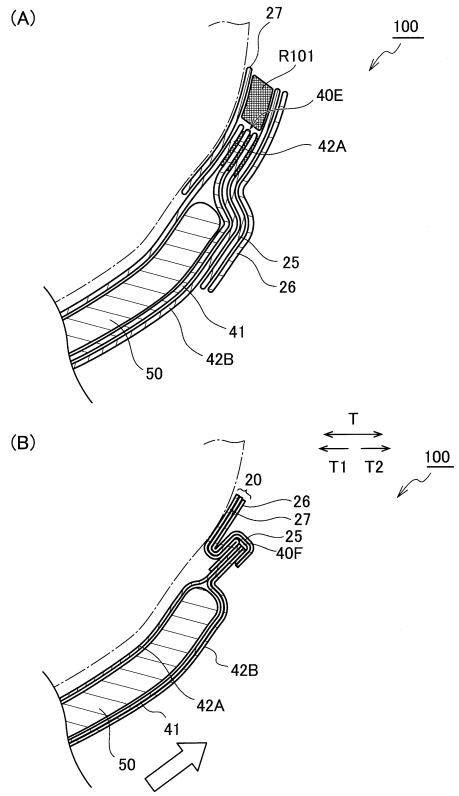
40

50

【 図 5 】



【 図 6 】



10

20

30

40

50

フロントページの続き

- (56)参考文献 特開平 1 1 - 2 0 6 8 0 9 (J P , A)
国際公開第 2 0 1 3 / 1 2 5 5 5 3 (W O , A 1)
特開 2 0 0 8 - 1 1 3 6 8 4 (J P , A)
特開 2 0 1 4 - 1 0 8 2 9 4 (J P , A)
特表 2 0 0 5 - 5 1 7 4 6 1 (J P , A)
- (58)調査した分野 (Int.Cl. , D B 名)
A 6 1 F 1 3 / 1 5 - 1 3 / 8 4